

Press Release(H28/11/25)

「400人親子陶芸教室」を開催

本学教育学部附属小学校3, 4年生全員とその保護者が陶芸に挑戦します

本学教育学部美術教育講座教員（教授 辻 泰秀）が主催する「400人親子陶芸教室」を、下記のとおり開催します。

土に触れながら自在に形をつくる陶芸が盛んになっており、紅葉の季節にみんなで芸術や感性にかかわる創作活動をしてみる試みとして、附属小学校の親子活動の時間を使って、3, 4年生全員とその保護者（合計約400名）で、自然の土での陶芸体験を行います。土（粘土）は、身近な自然材料です。思いに応じて自在に押す・丸める・へこませることができる可塑性があります。ドロドロ・ネチネチとした手触りも魅力的です。近年では、自然に接する外遊びの機会が少なくなっており、改めて、土のもつ可塑性や触覚性をいかながら個性を発揮することをめざします。

ついては当日の取材について、よろしくお願いします。

記

日時 11月26日（土）9:40 ～ 11:40（小学校2・3時限）

会場 岐阜大学教育学部附属小学校（岐阜市加納大手町74）

2階（3・4年生6教室）

対象	本学教育学部附属小学校	3年生児童全員（105名）と家族	全200名程
		4年生児童全員（105名）と家族	全200名程
		教育実習生及び教職員	20名程

目的・内容

○3年生は「世界で一つだけのはち（鉢）」と称して、自分で形や飾りを工夫しながら鉢をつくります。一人3kg以上の粘土を使った立体的な作品です。まず、大きな粘土の板をつくり、丸める・くっつけなどしてふくらみを表現します。生きものや花などのイメージにもとづく形、自在な抽象的な形（オブジェ）など、個性的な立体表現を期待したいです。

○4年生は「土の鈴」と「おしゃれな陶板」をつくります。土の鈴では、丸い形から発想をめぐらして一人一人鈴の形を工夫し、焼成後、動かすとコロコロ・カタカタと音になるようにします。陶板は、四角い土の板の表面に、指を使って押す・へこませ・つまむ・刻むことによる、模様づくりです。

（次ページに続きます。）

○作品は、乾燥後に岐阜大学の陶芸かまで750～850度で焼成し、完成します。

企画・運営

辻 泰秀 岐阜大学教育学部教授 専門：美術教育

【問い合わせ先】

岐阜大学教育学部 教授 辻 泰秀

電話：058-293-2277

E-mail：yasuhide@gifu-u.ac.jp